

平成 29 年度 狛江市市民活動支援センター第 3 回運営委員会 議事録

- 1 日 時 平成 28 年 9 月 4 日 (月) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 50 分
- 2 場 所 市民活動支援センター フリースペース
- 3 出席者 委 員 伊藤聡子 伊藤輝芳 上田英司 内海貴美 大矢美枝子 荻野修
佐藤新哉 高橋英史 高橋宗孝 西岡邦子 羽田野英博 松村正俊
松村雪子 三島瑞子
アドバイザー 山岡義典
事務局 小楠寿和 志田五十鈴 白石珠美 高橋善治 中里紀男 日比野浩
(50 音順 敬称略)
- 4 欠席者 委 員 田部井則人 渡辺敏政
- 5 傍聴者 3 名
- 6 議 題 1 報告事項
①指定管理業務の報告について
②専門部会からの報告について
2 協議事項
狛江市市民活動支援センター ～こまえくぼ 1234～
平成 30 年度事業計画 (案) について
3 その他

7 会議概要

1. 開会

委員長からあいさつがされた。

－市民活動支援センター指定管理業務報告書

2. 議題

(1) 報告事項

①指定管理業務の報告について

－指定管理における事業実績報告の添付資料に基づき事務局より説明。－

－質疑－

(委 員) 団体交流活動、団体の訪問に行った人たちが登録に来てくれるというわけではないのか。

(事務局) そういうわけではない。

(委員) 訪問に来た方でない方が団体登録に来たということは、こまかくの周知が進んだとみていいか。

(事務局) そうであれば嬉しい。訪問した団体ではないかもしれないが、口コミで広がったり、訪問した段階で登録に至らなかった団体が、後日相談事などがあって来館した時に団体登録をするということが多かった。

(委員) 団体訪問は周知が目的か。

(事務局) 周知の一方で、団体の情報を収集する目的もある。

(委員) 何団体に訪問するなどの目標はあるか。

(事務局) 目標は立ててはいない。その月の団体の活動予定にあわせ、必要に応じてスタッフで手分けをして訪問を行っている。

(委員) 訪問予定というのは、どのように決めているのか。業務の合間に訪問するのか、訪問活動を重点的に行っているのか。

(事務局) 業務を中心に、担当者が関連する団体に訪問する。

(委員) 来館者数と利用者数は同じになっているが、メールや電話での利用は含まれているか。

(事務局) 来館者数ではなく、利用者数と訂正する。

(委員) 電話は利用者に含まれないということか。

(事務局) 相談に含まれる。

(委員) 来館した人、電話した人、メールした人、というようにアクセスしてきた方法が分かるようにしたらいいのではないか。来た人数と団体数と分かるようにしたほうが良い。ひとつの団体で3人来たとしても、ここの支援自体は1団体へ向けたものだと思うので、単位を統一した方が良いと思う。

登録した人と登録していない人への対応の仕方に何か違いはあるか。

(事務局) 施設の優先利用や、ホームページの団体ページを持つこと、物品の利用などは、登録した方が利用できるものとなっている。フリースペース利用や、相談対応については、登録しているかしていないかということでの差はない。

例えば、何か始めたい・出来ることを探している方へは相談にのったり、一緒に情報を探したりしている。登録していないから相談を受けないということではない。

(委員) 何か場所やモノを利用する時には登録が必要で、対応については差はないということか。登録していない相談者は、利用者に含まれないのだろうか。

(事務局) 相談者と登録者はイコールではない。相談者は相談件数としてカウントされている。

(委員) その団体は把握しているという事か。

(事務局) どの団体が相談に来たかということは、把握している。

②専門部会からの報告

事務局より説明

◇体験学習部会

・8月19日(土)に「初めてのプログラミング」を実施。市内小学4~6年生13人、NPO法人えるぶ5人、ボランティア3名、部会メンバー5名、保護者等の見学5名の参加とドコモショップ狛江店の協力があった。このイベント実施後に、ボランティア参加した人が、親子でNPO法人えるぶへのボランティアにつながったことは成果としてあげられる。また、「子どもと一緒に来て見学をしていた保護者もいたので、こまえくぼを知ってもらえた。友人などへの口コミを通じて、こまえくぼの周知ができたらと思う。

・市内各小学校へ体験学習についてのアンケート調査を実施した。集計結果は今後の部会の活動に反映させていく予定。

(委員)

市内には6校あるが、偏りはあったか。

(事務局) 学校別のかたよりはなかったが、年齢のかたよりがあった。4年生がほとんどであった。

(委員)

偏りがないのであれば、良かったと思う。

(事務局) チラシ配布も部会のメンバーの方に気を使っていたき、どこかの学校だけ早く配られることがないよう、メンバーで手分けをして一斉に配布した。受付開始後 30 分位で定員となり、キャンセル待ちや断った方もいた。

◇情報部会

・8月23日(水) ホームページ活用方法入門編のイベントを実施。

市民活動団体 29 団体 41 名、市役所関係 7 名、社協 1 名、計 49 名の参加があった。

ホームページの活用を知っていただくことを中心に、WIX というホームページ作成のデザイナーにも協力をしてもらい、ワークショップ形式で行った。ホームページを作りたい、ホームページを使って情報発信をしたいという団体が多いと感じた。また、30 代～90 代の方の参加もあり、世代間交流にもなった。

◇広報部会

・第2号を7月15日に発行。特集の『ほっこりさん』では、12名の市民の方を取り上げたので、にぎやかな紙面になった。掲載された方からは、ご近所の方が訪ねてきたであるとか、同級生から連絡がきたというような話を聞いている。また、公民館等に15日に行ったら「こまえがお」が置いてなかったという問い合わせもあり、配布方法については今後の課題としてある。

・11月15日発行第3号に向け、7月に1回、8月に2回編集会議開催

特集は『子ども食堂・居場所』予定

・東京ボランティア・市民活動支援センター発行「ネットワーク」の『ぼらせんナビ』に「こまえがお」のことを中心に3部会の活動について執筆した。10月号での掲載になるので、発行予定が分かり次第、委員の方には連絡をする。

(2) 協議事項

狛江市市民活動支援センター ～こまえくぼ 1234～

平成 30 年度事業計画（案）について

事務局より平成 30 年度事業計画（案）及び平成 30 年度予算（案）の資料に基づいて説明

（事務局）前回の運営委員会で話のあった事業の評価方法等について、正副委員長を含めた話し合いを重ねた。その中で、30 年度の実業計画案の作成をする前に、29 年度のここまでの自己評価をすることで、事業の全体像が見えてくるのではないかということで、資料 2 のようにまとめた。どこまでできていて、これから何をしなければならないのかという整理ができたかと思う。

これをもとに 30 年度の実業計画の素案を立てた。3 か年の計画があり、それに沿って立てていくこととなる。今年度も 4 か月が過ぎているが、委員のみなさんからご意見いただいているように、すべての事業をの中で、必ずやらなくてはならない事業と優先順位を付けた方がよいものがある。

これまで重点目標としてきたものを基本事項としつつ、団体・個人への支援、市民活動の周知に焦点を当てるようにした。細かな事業については、予算が最終的に固まった段階で詰めていくことになる。

（委員長）

感想として、昨年度は事業計画がもりだくさんで、明確でない部分もあった。その中で、自己評価を行ったわけだが、一覧で見ると本当に多いということが分かる。市民活動支援センターが根幹とする部分について、職員が全てやらなくてはというところもあったし、運営委員の方も方向性がわからないこともあった。研修会なども行い、30 年度の計画には、3 本の柱も保ちながらすっきりしたかたちになったのではないか。各委員から質問があれば出していただきたい。

（委員）

全体の予算書を見せていただいた。科目別になっている。事業のそれぞれについて、どれほど予算に組み込まれているかということは是非知りたい。

情報部会についてもそうだが、やり始めるとやりたいと思ってもお金がないとできない。事業も絞り込みをして、優先順位を示していただければ、皆さん納得する。運営委員としてどう関わっていくかということでは、小委員会等で事業と予算についてわずかな期間ではあるが、納得できるものにできたら、協力の仕方も違うと思うので、提案したい。

(委員長)

事業の包括的な予算と、それぞれの項目の予算が見えないということで、それを知りたいという意見だが、それは予算書の中に内訳として盛り込むことはできるか。検討してほしい。

(事務局)

事業別にわかるようなかたちで示せるように検討する。

(委員長)

細かいところであるが、7ページの「団体を運営するのに必要な講習会や勉強会」とあるが、できれば前もってアンケートをとっていただいて、マッチングしていただけるといいかと思う。

それから、「暗闇レストラン」に後援団体として関わっているが、報告や事業計画などにはできていない。すごく良いイベントだがそうした関わりを計画の中でどのように反映させられるか。

(委員)

後援団体や行政とのつながりをやっていただいた。

また、団体活動の支援というかたちで運営面についてもアドバイスしてもらった。

(事務局)

今回は、主催団体から相談を受けながら、運営面などについてもかなり時間をかけて支援を行った。事務局としては、相談を受ける中で団体をどこまで支援したらいいかということは、悩みながら行ってきたところもある。支援センターの支援は、団体によっても時と場合によっても違うのではないかと思う。

ただ、他の相談や事業とのバランスもあるので、振り返り整理を行う必要がある。

(委員)

情報の収集や発信のところで、発信の話はあるが収集はどうか。

発信するには、収集しないとできない。収集をどうやるかということは、巷にどういう課題があって、どのくらいの人がいるかということを知ることが重要で。そのための人を集めるというようなことをやるのがここの存在意義だと思う。

支援というのは、支援する人を連れてきてマッチングして終わるのか、ここのセンターが支援するのか。今の職員で多くの課題を解決する方法としては、前者なのではないかと思う。情報をいかに見つけてきて、いかにここへつながってもらえるかということで、計画を練ってみてはどうか。専門知識のある方を見つけてきて、そういう人を紹介する。そういうことをしていくと頼られるセンターになるのではないか。

また、課題を探すばかりではなく、今分かっていることについては解決していくということ

を入れていただくと、何をするのが明確になると思う。

(委員)

今の意見について、情報部会のイベントを試みとして行ったが、これをやれば、情報が得られて登録が増えるということが分かった。あとはこうした事業をどれだけ増やせるか。その事に対する予算ができていないと実施もできない。

(副委員長)

今回この評価表がでてきたことは、前回の委員会で提案されたものだが、評価軸として一覧表ができたことは価値があることと思う。運営委員会が主体となって事業に対する評価をする核ができたのはポイントだと思う。

評価が飾りで終わらないように、指摘があった部分を事業計画にどう落とし、それを委員会や部会でどう行っていくか、且つ、運営委員会が議論をしながら担い手になるということができれば良いのではないかと思う。

(副委員長)

情報の収集については、ここに各分野の方が集まっている。委員会が終わった後でも良いので、団体や個人の話のひとつでもできれば、こんなことができるのではないかという話が出るのではないかと思う。この運営委員会もしょっちゅうあるわけではないので、そういう機会を作れるとよい。

(委員)

学校のココア（KOKOA：放課後子ども教室）の会議では、委員が集まった時に自分の地域のことについて話す。この委員会では時間がなくてできないが、いろいろな団体から来ているので、そうしたことを話せるのはいいと思う。そうした時間があってもいいと思う。

(事務局)

以前そのような話もあがったが、上手く時間がとれずに実現していなかった。本日改めてこのような意見があがったので、事務局でも運営委員会の持ち方については検討したいと思う。

(委員長)

協議事項については異常となる。

狛江市市民参加と市民協働に関する審議会で、28年度の市民活動支援センターの事業に対する第三者評価が行われていると思うが、事務局は結果を聞いているか。

(事務局)

先日、審議会でその話し合いがあり、概ね期待通りという評価をいただいたと聞いている。

今後の課題等挙がっていたと思うが、審議会からも運営委員が選出されているので、どんなお話しが出たかご報告いただけるか。

(委員)

委員が個々に評価を出して、事務局（政策室）がまとめている。

A～Dで評価することになり、概ね「C」の期待通りが多かった。総合的に見て期待通りということであった。

次回の会議で議事録が出ると思う。また、市長への答申もあるので、また次回の委員会でそれも含めてご報告が出来ると思う。

(委員)

予算について今のところ質問など何もないが、情報部会のイベントを行って色々出たものに対して、事務局を中心に行っていかなければならないと思う。情報部会としても検討させてほしい。結局無駄な作業を計画してできないということではしょうがない。ホームページについては何もなくていい場合と、市民の人が何かしてほしいという場合とでは違ってくるので、市民に応じてあげないといけない。その人たちが満足していく形でできないと、部会としてまずいと思う。

(副委員長)

各部会と、事務局との調整ということで、先ほどの議論にもあったが、それはいったん預かったということで良いか。

(委員)

是非お願いしたい。

(アドバイザー) 非常に熱心に動き出した、2年目に入ったな。今日の議論の一つひとつが非常に深いものだったと思う。「支援センターの支援がどういうものか」一番良い支援は「支援しなくてもいい支援」。最初はすごく支援が必要なのは仕方がない。相談にのっているうちに、市民団体同士で相談ができるようになるのが一番良い支援センターの姿。今はたいへんであるが、これから2、3年経つうちにお互いに支援し合う場ができていく、そういう場を作ることが最終目的と考えるとよい。相談件数が多いからよい支援センターかというところではない。

ただ、常に法律や環境など社会が動いているので、相談は絶えない。支援センターは常に新しい状況における相談を受けていく。通常の相談は、この地域で育った先輩の団体が後輩の団体に教えるなど、団体同士ネットワークの中でやっていく。

1回目に企画・協力したものは、2回目からは自分たちでできるはず。2回目も3回目も、

常に支援センターを必要としている状態では、支援センターとしては失格になる。団体が、自分たちでやっていける、お互い同士が知恵を出し合ってやっていく。そういう場や機会を作るということ。機会づくりもできれば1回目はセンターが行っても、自立した市民セクターができるということが理想。数年の間は大変だと思うが、今はそういう時期だと思うこと。

後援というのは、一番安上がりで喜ばれるサポート。実際にお金はかからないが、後援することは、後援団体の信頼性がある。支援センターの周知にもなる。後援をするかしないかの審査の過程、基準をつくっておくこともした方が良さそう。

専門相談は時間があれば、協力できるので、声かけてもらえればと思う。

部会をつくってやっているのでは、議論が深まっていると思う。

(委員長)

各自、部会で調整するところはしておく。

3. その他

・事務局より事務連絡

平成 29 年度東京都区市町村ボランティア市民活動センター運営委員及びセンター長合同会議があるので、参加される方は連絡をしてほしい。

次回臨時運営委員会は、9月25日(月)18時30分～